

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宇 部 市 立 川 上 小 学 校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	26
児童数	103	85	91	92	94	95	5	565	

研究の概要

1. 研究主題

平成15年度「自ら問いつづけ、主体的に表現する子どもの育成」
～ 確かな学力の定着をはかるための教科指導のあり方～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 3～6年生・算数 週に3時間
児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 1・2年生・算数 週に1時間
児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

テーマ
確かな学力の定着をはかるための教科指導のあり方
～ 算数科を通して～

研究の見通し(仮説)

- ・ 全校で読み・書き・計算の学習に取り組めば、学習の基礎・基本の定着が図れるだろう。
- ・ 個に応じた学習形態や指導方法を工夫・改善することにより、確かな学力が定着するだろう。
- ・ 単元計画や教材の工夫により、子どもの学習意欲を高め、学力を向上させることができるだろう。

研究の内容・方法

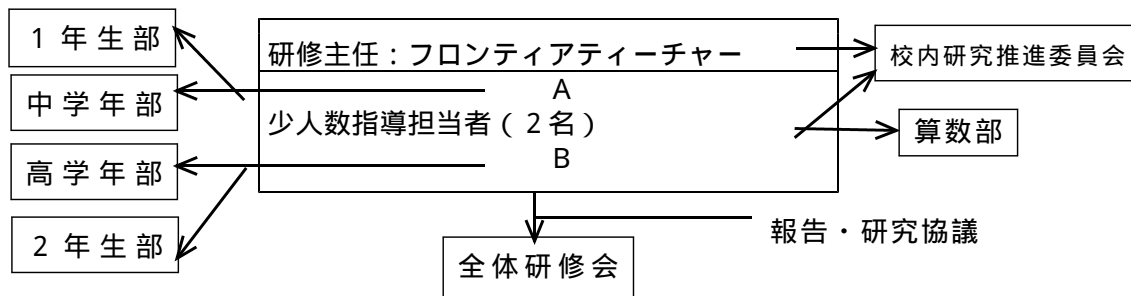
- ・ 個に応じた指導
朝の「のびのびタイム」(15分のモジュール)において、火曜日は漢字、水曜日は読書、金曜日は計算に取り組む。計算については、計算力を伸ばす「ステップアッププリント」を作成する。それは1～6年生までの「数と計算」の領域の問題が学年を追って系統的になっており、全部で179枚ある。各自が取り組み、自分にあった進度で進み、よく分からないときには前の段階のプリントにもどる仕組みになっている。つまずきのある児童へは、担任をはじめ少人数担当や音楽専科の教員にも指導に入ってもらい個別に指導する。
- ・ 算数科における少人数指導
二人の少人数担当者(1・3・4年、2・5・6年の3学年ずつを担当)が、全ての学年で算数の時間に少人数指導を行う。特に3～6年生に重点をおき、児童がつまずきやすい単元を重点単元とし指導にあたる。1・2年生についても重点単元を決め、学期に1単元程度の指導にあたる。
低学年は、ほとんどが学級を均等二分割して、担任と少人数担当で指導する。3～6年生は学習内容により、均等二分割・TT・習熟度別学習を組み合わせ指導する。

習熟度別学習の方法

	<p>(ア) 単元の途中に、習熟度別学習を取り入れる場合 基本の学習は均等二分割で行い、つまづきが多いと考えられる所で評価テストを実施し、児童にコースを選択させる。</p> <p>(イ) 単元を通しての習熟度別学習の場合 レディネステストを実施し、児童にコースを選択させる。</p> <p>(ウ) 単元の最後に、習熟度別学習を取り入れる場合 評価テストを行い、児童にコースを選択させる。</p> <p>習熟度別学習の形態</p> <p>(ア) 1学級を2つのグループにして ほとんどがこの形態で、担任と少人数担当で実施する。</p> <p>(イ) 3学級を4つのグループにして 学年を解体し、担任と少人数担当で単元末、学期末に実施する。</p> <p>(ウ) 3学級を5つのグループにして 学年を解体し、担任と少人数担当や専科教員で実施する。単元末、学期末、学年末に実施すると効果的である。</p> <p>習熟度別学習のコース選択の手順 評価テストの実施 希望コースの選択 必要な児童には教師の指導 コースの決定（児童の希望優先）</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業の公開
平成16年度	<p>テーマ 学ぶ楽しさ、わかる喜びがあふれる授業づくり 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態や学習内容による個に応じた指導・支援をすれば、子どもの学習意欲を高め学力向上が図れるだろう。 わかる授業を工夫すれば、学ぶ楽しさが分かり、子どもの学習意欲が育つだろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身に付けさせる単元ならびに教材開発 算数科だけでなく全領域（教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間）で取り組む。 研究授業の公開 児童の学力の評価を生かした指導の改善

(3) 研究推進体制

少人数担当者2名は、それぞれ4年部と5年部に所属し、主に中学年部と高学年部を中心に研究を進める。少人数担当者は、算数部と研究推進委員会に所属し、連携をとりながら研修を推進していく。少人数の指導のあり方については、進め方や取組の様子などを全校研修でも取り上げ、成果や課題について研修していく。

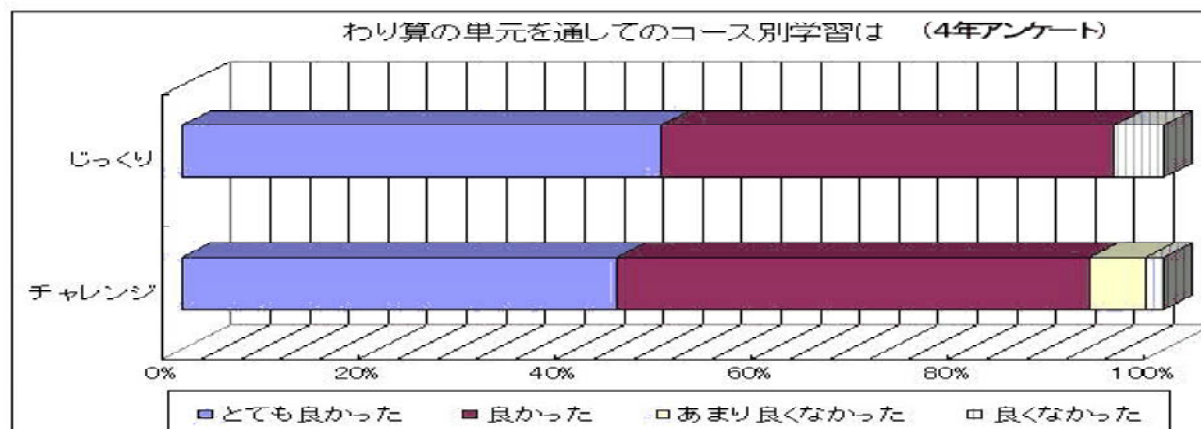
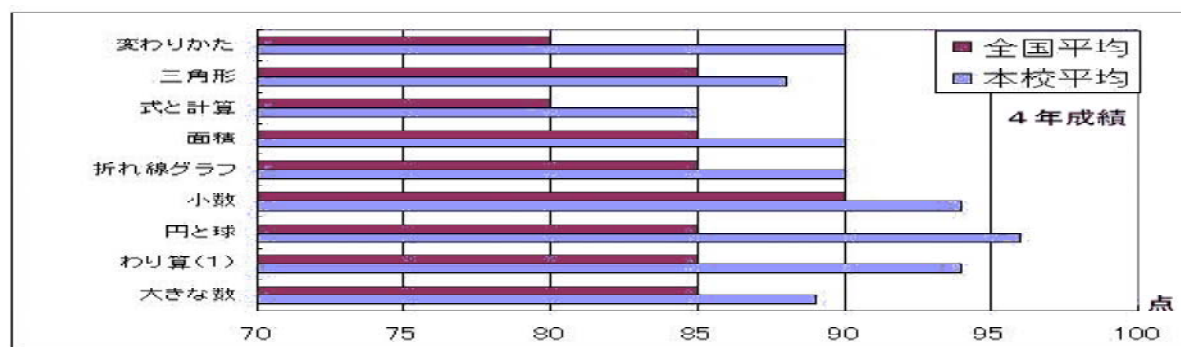
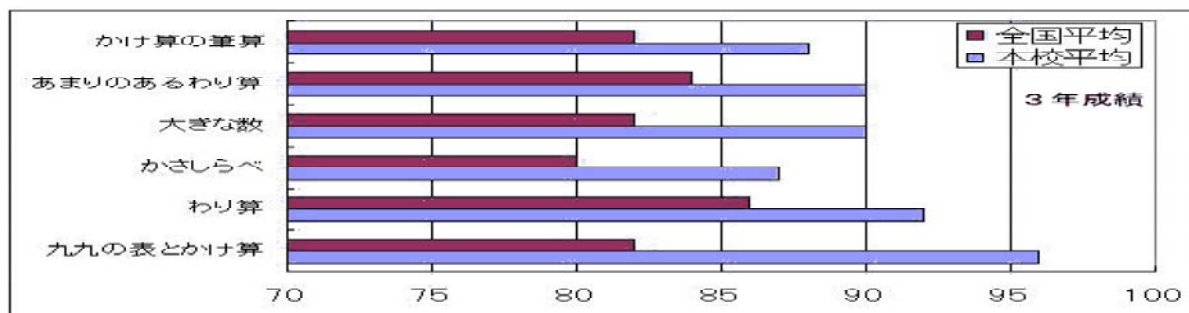
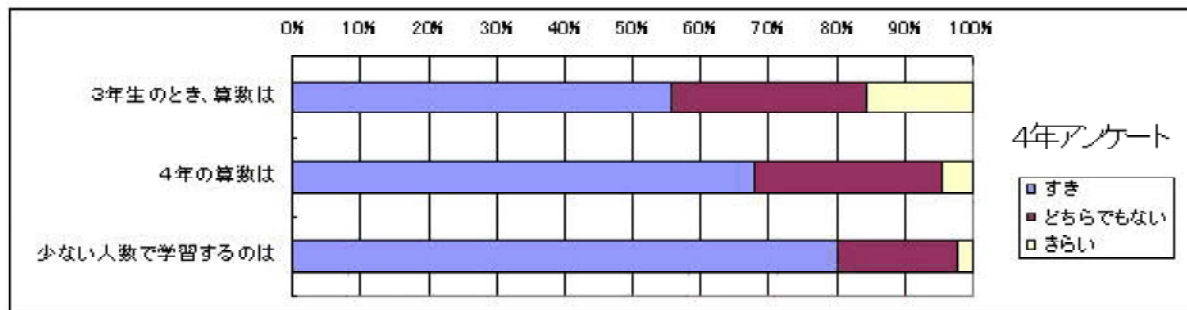


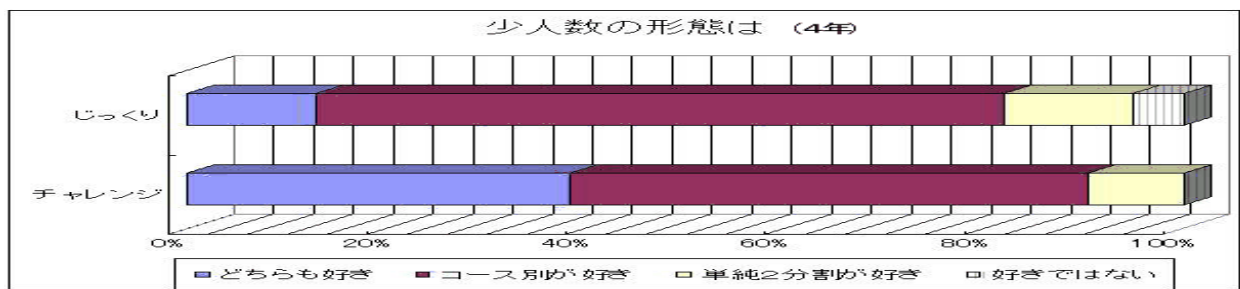
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

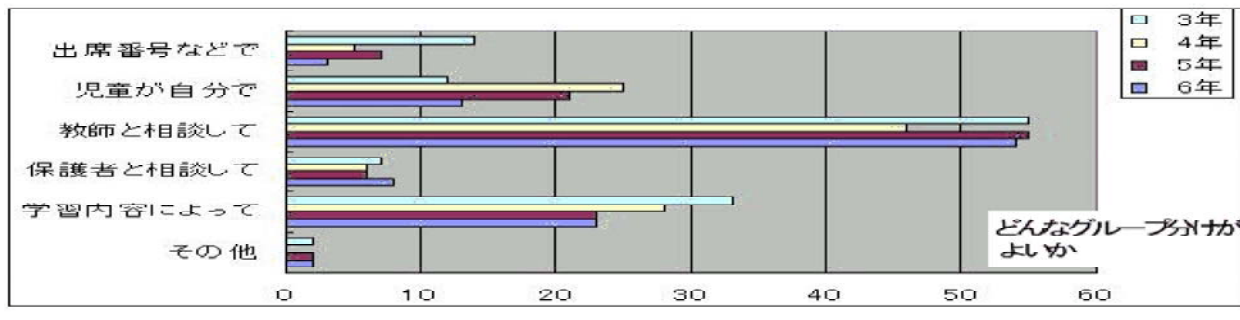
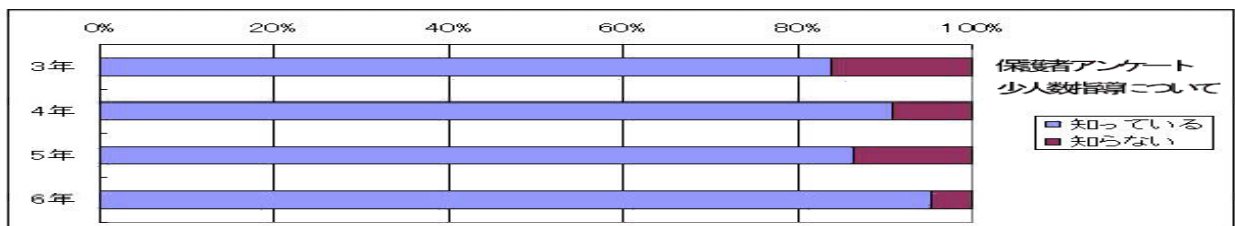
- 多様な学習形態（習熟度別学習、少人数指導、チーム・ティーチング）を取り入れたりと、学習内容を工夫したりしたことによって、個に応じた指導ができ、児童は意欲的に学習し、学力が定着しつつある。
- 児童が自分のコースを決定する経験を重ねるうちに、自分の実力を客観的に判断することができるようになってきた。
- 習熟度別学習では90%以上の児童がコース別学習が「とてもよかった」と答えて

いる。また、チャレンジコース(発展学習)とじっくりコース(補充学習)における「よかった。」という回答を比べてみると、チャレンジコースの児童は単純二分割とコース別のどちらも好きが40%いるのに対して、じっくりコースの児童は圧倒的にコース別が好きと答えている。習熟度別学習は理解力が十分でない児童にとってより有効であり、児童の満足度も大きいことがわかる。習熟度別学習では一斉授業の中で埋もれていた子ども一人ひとりの個性が活かされるようになった。また、得意だった児童はより自分の興味・関心を生かして発展的な学習に取り組めるようになった。





- ・学年を解体してコース別学習を行うことにより、学級の枠を超えて多くの友達と交流することができ、刺激を受けたり、お互いの良さを理解し合ったりすることができた。また、担任以外の教師の指導により、授業に緊張感が生まれ、集中力も高まった。
- ・少人数指導の指導計画や評価計画づくり、教材準備を通して、指導者同士の連携が密になり、効果的な指導方法等について話し合うようになり、教師一人ひとりの意識の変革ができた。
- ・「のびのびタイム」の取組では、のびのび計算や漢字、読書が楽しいと言う児童が70%以上で児童は喜んで取り組んでいる。計算力や漢字の力も身に付いているという気持ちが強いようだ。もっと「のびのびタイム」の時間を増やしてほしい、文章題や作図問題・理科や社会もしたいという意見もあった。
- ・保護者によるアンケート調査では、少人数指導が行われていることを90%以上が知っており、取組への理解が深まってきている。また、グループ分けの方法については、「児童が自分にあったコースを選ぶ」とか「学習内容によって分け方を変えるのが良い」などの意見が多く、習熟度別学習に肯定的である。



2 今後の課題

- ・ 補充的な学習の教材開発だけでなく、発展的な学習の教材開発にもさらに力を入れたい。
- ・ 振り返りカードを持たせて児童の授業評価を行ってきたが、それを生かした授業改善に一層取り組んでいきたい。
- ・ 与えられたことはこつこつやることができるが、さらに主体的な学びができる子どもたちに育つよう、より一層の授業改善に取り組んでいきたい。
- ・ 基礎・基本の定着のためには家庭学習が大切である。家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫も考えていく必要がある。
- ・ 標準学力検査の結果を生かして、個に応じた指導を一層深めていきたい。
- ・ 「確かな学力」を育てるには、少人数による指導が効果的であるということが、実践を重ねていく中から理解できてきた。しかし、確かな学力を育てるためには、教科指導だけでなく、自分の思いや考えを安心して表現できる土壌(人間関係づくりなど)

も大切であると考えられる。そこで来年度は、教科に加えて、道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導も、確かな学力を育てる要素として、総合的に研修を進めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- 標準学力検査（CRT）の実施
1月下旬、3～6年生に、算数の標準学力検査（CRT）を実施した。
児童の学力を正確に把握するとともに、これまでの指導の振り返りや今後の個に応じた指導に生かしていくなど、有効に活用していく予定である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 保護者への啓発を図るために、PTA総会や広報誌等で趣旨説明を行い、参観日に授業参観を行った。



- 地区別協議会での実践報告
- 研究集録の作成と配布
- 平成16年度は、公開授業研究会を開催する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無